



チドリ目シギ科の鳥はもともと種類が多く、大きさや形も変化に富んでいます。世界的に多く分布し、約80種がいますが、多くの種は北半球の北部で繁殖し、長い渡りをして熱帯や南半球で越冬します。約80種のうち日本では約50種、涸沼では33種が確認されました。

○アカアシシギは絶滅危惧Ⅱ類
(絶滅の危険性が増大している種)

▼主な特徴

全長27・5 cmで、タゲリとほぼ同じ大きさです。長くて赤い足と、基部が赤いまつすぐな嘴がトレードマーク。飛行時に次列風切と初列風切の一部に幅広い白帯が見られます。鳴き声は

里山に育む生きものたち

38 アカアシシギ
(チドリ目 シギ科)

学名 Tringa totanus
英名 Common Redshank

写真/和気 博之
文 /山口 萬壽美

「ピーチヨイチヨイ」。繁殖期は「ピヨッピヨッピヨイ」、または「ピークウ」と鳴きます。

▼分布

ヨーロッパ東部、中央アジア、モンゴル北東部、アラスカ北部等で繁殖します。冬季はアフリカ、中東、インド、東南アジア等で越冬します。日本では北海道の風連湖、霧多布、野付半島等での繁殖が知られています。県内でも霞ヶ浦や北浦などの干潟や川岸の湿地帯で旅鳥として春から夏に少数が飛来します。

冬羽のツルシギと似ていますが、①ツルシギの方が嘴・足が長いこと。②アカアシシギの方は白色眉斑が目の上まであること。③アカアシシギの方が

褐色味が強く、飛行時に見える次列風切が白く目立つこと。④鳴き声が違うことから見分けられます。

▼湿地の保全とラムサール条約

1980年代、シギ、チドリが集まる伊勢湾の藤前干潟周辺では、埋め立て計画が進んでいました。

そのような状況の中、これらの所に飛来するシギ・チドリ類がアラスカ北部で繁殖している亜種であることが近年わかりました。そこで、ごみ処分場として埋立てが計画されていた藤前干潟はその計画が撤回され、2002年にラムサール条約登録湿地となりました。

毎年5月になると、本県では田植えが一斉に始まります。田植え直前の代掻きをした後の水田は土がならされ、水が張り、さながら水鏡のように澄んでいます。そこへ、ハマシギやチドリ達の群が飛来します。このような光景を長いこと涸沼周辺で見てきました。ところが、最近はこのような姿が見られませんか。どうしたのでしょうか？

ラムサール条約の正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」です。私たちの涸沼が同条約に登録が予定されています。国際的に重要な湿地である涸沼を、皆さんの手で保全していくことが大切です。

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤1080 TEL 029-292-1111 FAX 029-292-6748

ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成27年4月末現在)
◆総人口 33,822人(+213)、男 16,925人(+172)、女 16,897人(+41) ◆世帯数 12,795世帯(+244)

DATA

再生紙を使用しています



環境に優しい大豆インクを使用しています